


おおわだ たけき
 大和田 建樹 (1857-1910)

唱歌に新体詩の概念を導入した、明治期の唱歌作者の第一人者。

■代表曲

「鉄道唱歌」「故郷の空」「青葉の笛」

■こんな人物

伊予国出身の国文学者、歌人、唱歌作者。幼いころから藩校明倫館等で学んだのち、広島英語学校（後、県に移管され広島県英語学校に改称）を経て、明治12年（1879）上京。東京帝国大学古典講習科講師、東京高等師範学校及び同女子部教授等を歴任した。

国文学者として文学史や辞書等を刊行する一方、自らが観世流の門下として謡を愛好したこともあってか、謡曲の注釈書の執筆にも力を注いだ。また、詩、短歌、唱歌の作歌等、多彩な活動を行った。

唱歌においては、「新体詩」を取り入れた功績で評価される。また、「汽笛一声新橋を」の歌い出しで知られる「鉄道唱歌」があまりにも有名だが、日露戦争に際しては「廣瀬中佐」「旅順陥落」などの軍歌も残している。

■生没年

安政4年（1857）、伊予国宇和島に藩士の長子として生まれる。明治43年（1910）10月1日、東京牛込（現・新宿区）の法身寺にて歿。享年53歳。青山霊園に眠る。

 参考文献

- ・『近代文学研究叢書 第11巻』昭和女子大学近代文学研究室編 昭和女子大学光葉会 1959 [910.26/20/11]
- ・『汽笛一声新橋を』中島幸三郎著 佑啓社 1968 [K76/68]